本書の構成と使い方

本書は，**現場から生まれた先生と生徒のためのテキスト**です。授業での使いやすさを求め，良質な問題を選び，知識が定着するよう構成を工夫しています。

反復練習ができるよう，例題，演習問題で構成されています。今までの英作文テキストにはない圧倒的な量です。「**習うより慣れろ**」を実践し，英語を得意科目にしてください。

単元のまとめ

各単元に文法事項・表現のまとめがあります。英作文でポイントとなる文法・表現，入試頻出の表現に重点を置いています。

例題

まとめで学習した文法・表現が入っている問題になっています。その他の入試頻出表現をできるかぎり盛り込むよう工夫しました。

解答・解説

模範解答と解説で構成されています。模範解答はできるだけ簡単な表現を使い，簡潔な文にすることを心がけました。また，それぞれの文のポイントとなる点には詳しい解説を加えています。従来のテキストには簡易的な解説しかありませんでしたが，より細かな解説を加えることにより正しい表現を身に付けることを目的としています。

Tips

解説で扱い切れなかった英作文のポイントを中心にまとめています。その他，会話表現，間違えやすい表現，日本語と英語の違いなど英作文に役立つ知識を盛り込みました。

使用イメージ

整

ポイントの整理

解説を使って，英作文の基礎知識を深めます。英作文で必須となる文法，表現を身につけます。中学の英文法の内容で構成されていますが，英作文を書く視点でまとめてあります。

▼

例

実践への準備

例題を使って，解説の知識を深めます。書き込みスペースをたくさんとっていますので，解答・解説に書かれている内容，または板書の内容をしっかり書き込んでください。自分だけの英作文必勝ノートを仕上げましょう。

▼

演

入試レベルの問題で実践

各単元の内容に合わせた大学入試レベルの問題４題で構成されています。今までにはない圧倒的な量です。日本語の言い換えはもちろん，文の構成，どのような単語を使うかなど，持っている知識をすべて使って解いてください。

例題同様，書き込みスペースをたくさんとっています。解答・解説や板書の内容を書き込んで知識の整理をしましょう。

もくじ

●Ｌｅｓｓｏｎ １　主語の決定 ・・・・・・・・・・・・・・・　４

●Ｌｅｓｓｏｎ ２　動作を表す表現 ・・・・・・・・・・・・・１２

●Ｌｅｓｓｏｎ ３　状態を表す表現 ・・・・・・・・・・・・・２０

●Ｌｅｓｓｏｎ ４　注意すべき動詞表現 ・・・・・・・・・・・２８

●Ｌｅｓｓｏｎ ５　時制の決定 ・・・・・・・・・・・・・・・３６

●Ｌｅｓｓｏｎ ６　比較を使った表現 ・・・・・・・・・・・・４４

●Ｌｅｓｓｏｎ ７　接続詞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・５２

●Ｌｅｓｓｏｎ ８　慣用表現 ・・・・・・・・・・・・・・・・６０

Lesson 1 主語の決定

1 名詞

(a) コンピューターというものは絶えず改良されるものだ。
Computers are constantly being improved.

(b) たくさんの情報がその問題を解決するかぎだ。
Much information is the key to solving the problem.

(c) 我々のスタッフがあなたのお手伝いをぜひしたいと思っています。
Our staff is eager to help you.

(a) 可算名詞…単数形と複数形の区別があり，単数の場合は a／an をつける。

▶ 日本語に「～というものは…」とある場合，可算名詞であれば複数形に，不可算名詞であれば冠詞をつけずに単数形で書く。

(b) 不可算名詞…通常，複数形にはできない。直接，数詞をつけることができない。

information，advice，weather，work，news，homework，fun，money など。

▶「たくさんの情報」というときには，much [a lot of] information としなければならない。絶対に many informations などとはしないように。

(c) 集合名詞…同じ種類のものや人が集まって１つのものとみなす名詞。

class，club，family，company，staff，government，police，people，audience など。

▶ police，people は通常，複数で受けるので，The police are ～とする。ただし，people を「国民，民族」の意味で使う場合，a people（１つの国民）と表すことができる。

tips

不可算名詞

日本語では数えることができても，英語では数えられない名詞がたくさんある。「金属」，「液体」，「気体」，「材料」などは数えることができないので注意しよう。

- iron（鉄）
- water（水）
- rain（雨）
- wine（ワイン）
- air（空気）
- wood（木材）
- meat（肉）
- money（お金）

不可算名詞の数え方

不可算名詞を数える場合は，「入れ物」や「形」，「単位」などを使って数える。

●形　a piece [sheet] of paper（１枚の紙）／two slices of bread（２枚のパン）

●容器　a cup of coffee（１杯のコーヒー）／a glass of wine（１杯のワイン）

●単位　a pound of cheese（１ポンドのチーズ）／a spoonful of sugar（砂糖１さじ）

【例題①】 次の日本語を英語に直しなさい。ただし，（　　）があるものは，その指示に従うこと。

⑴　言語というものは，一種のコミュニケーションの手段でしかない。

⑵　車というものは，私たちが考えるよりはるかに便利なものだ。

⑶　彼らは観光シーズンにたくさんのお金を稼いだ。（money を使って）

⑷　私たちの会社には優秀な人がたくさんいる。（our company から始めて）

⑸　警察は銀行強盗を探している。（the police を使って）

■演習問題■

1　**次の文章を読んで，下線部の日本語を英語に直しなさい。**

　私たちは，ことばを使っていると，ことばというものがいろいろな意味で「力」を持っているということを経験すると思います。人を喜ばせたり，悲しませたり，人の心を動かして何かをさせる―ことばには，このような力があります。ときには，ことばの持つ力のほうが，肉体的な暴力よりも私たちをひどく傷つけるということすらあります。

（大阪大学・改題）

【ヒント】　「いろいろな意味で → 多くの点で」，「経験する → 気づく」

2 次の文章を読んで，下線部(1)，(2)の日本語を英語に直しなさい。

(1)表情は聴衆とつながるのに重要である，but the skillful speaker does not want to manipulate the audience by using them. (2)聴衆はたいてい話し手の笑顔が本物かどうかわかるものである。As in all body movements, facial expressions should be natural extensions of the spoken message.

（熊本大学・改題）

【ヒント】 (1)「表情」: facial expressions　(2)「～かどうか」:〈whether ～ or not〉,「話し手の笑顔が本物かどうか → 話し手が本当に微笑んでいるのかどうか」

2　代名詞／不定詞・動名詞

(a)　アメリカで育てば，英語を話すのは簡単だ。

If **you** grow up in America, it's easy to speak English.

(b)　医者になるのが彼女の望みだった。

Becoming a doctor was her desire.

(c)　１日でその本を読むのは私にとって難しいだろう。

It will be difficult **for** me **to read** the book in a day.

(a)　代名詞

①　I：「私」は日本語では省略されることがほとんど。

②　It：ⓐ天候，時間，距離などを表す文の主語／ⓑ漠然と状況を表す／ⓒ前方の名詞を表す／ⓓ形式主語

③　we，you，they：一般的な人を表す。

▶ 日本語では主語が省略されることが多い。英訳をする際には，主語は何かを考えてから書き始めよう。

▶ 一般的な人を指して we を使う場合，ふつう「我々」という意味になる。したがって，「我々日本人は～」のような場合に使うのが基本。

(b)　不定詞／動名詞：to *do*／～ing

▶ 日本語では「…するのは～」と表されることも多い。

(c)　形式主語

①　「…するのは（A にとって）～だ」：〈It is ～（for A）to *do*〉

②　「…というのは～だ」：〈It is ～ that S'＋V' …〉

tips

意味を持たない it の用法

英語は〈主語＋動詞〉が強く意識される。したがって，特に何を指すわけでもない場合，形として it を置くことにより〈主語＋動詞〉の形にするのである。

●時　　It is already eleven.（もう１１時ですよ。）

●天候　It is very cold today.（今日はとても寒いね。）

●明暗　It is getting dark.（暗くなってきたね。）

●距離　It is about five kilometers to my house from here.（ここから家まで約５キロです。）

●状況　Now, it is my turn!（さあ，僕の番だ！）

【例題②】 次の日本語を英語に直しなさい。ただし，（　　）があるものは，その指示に従うこと。

⑴　山小屋まで行くのに１時間半かかった。

⑵　ストレスがたまったら，音楽を聴くのがよい。

⑶　美しい自然の中で生活したい。

⑷　自分の考えを他人にわかるように説明するのは難しい。

⑸　その店ではたくさんの種類のパソコンやテレビを売っている。（能動態で）

■演習問題■

3 次の文章を読んで，下線部⑴〜⑶の日本語を英語に直しなさい。

Kaori: ⑴大学に入ったら，夏休み中に，海外旅行をしたいと思っているんです。

Mr. Smith: まあ，それはいい計画ね。それでどこへ行くの。

Kaori: それが，自分で決められなくて。先生はいろんな国に行かれたそうですが，どの国がいちばんよかったですか。

Mr. Smith: ⑵どの国も独特の文化を持っていて魅力的でしたね。

Kaori: 私も広い世界を自分の目で見て，いろいろなことを学びたいです。

Mr. Smith: ⑶海外へ出ることは，日本を見直す良い機会になるでしょう。

（鹿児島大学）

【ヒント】 ⑴「大学に入る」: enter university,「〜中に」:〈during 〜〉　⑵「どの〜」:〈every 〜〉,「独特の」: unique　⑶「海外へ出ることはあなたに日本を見直す良い機会を与える」と言い換えて書く。

4 次の文章を読んで，下線部(1)，(2)の日本語を英語に直しなさい。

(1)何かについて学びたいと思ったら，どうするだろうか。A traditional way is to go to your bookshelf, pick up a dictionary or encyclopedia, and start turning pages. (2)しかし，今ではコンピューターの電源を入れ，インターネットにつないで，検索プログラムをスタートさせることができる。You just type in the keyword(s), click “search”, and soon you will have what you are looking for.

【ヒント】 (1)仮定法を使って書く。「～について学ぶ」:〈learn about ～〉 (2)「インターネットにつなぐ → それ（コンピューター）をインターネットにつなぐ」,「検索プログラム」: its search program ※ここでの its は「インターネットの」という意味。

Lesson 1〈解答・解説〉

【例題①】

⑴ ❶ Language is only [just] a [one] means of communication.
❷ Language is only [just] a [one] way of communicating.

⑵ ❶ Cars are much more useful than we think [expect].
❷ The car is much more useful than we think [expect].

⑶ ❶ They made much money during the tourist season.
❷ They earned a lot of money during the tourist season.

⑷ ❶ Our company has a lot of able [efficient] people [employees / workers].
❷ Our company has many able people [employees / workers].

⑸ The police are looking for a bank robber [bank robbers].

【解説】

⑴ 「言語というものは」は，「一般的な言語」と考えて language で表す。「個々の言葉，言語」という場合には(a) language(s)で表す。「コミュニケーションの手段」は，a means of communication または a way of communicating とする。a way of のあとは通常，動名詞が続く。「～でしかない」は「ただ～／単なる～」と考えて only または just で表す。

⑵ 「車というもの」は cars で表せばよい。❷のように the car とすると「車」という総称を表す。「～よりはるかに便利なものだ」は，〈(much) more useful than ～〉で表す。much をつけると「さらにずっと」という強調の意味を表す。useful は more 型なので usefuler などとはしないように。「私たちが考える」は we think，または「予期する」と考えて we expect で表す。

⑶ 「お金を稼ぐ」は make [earn] money で表す。本問では「たくさんの」とあるので，much または a lot of をつける。money は不加算名詞なので moneys としないように。「観光シーズンに」は during the tourist season で表す。during the sightseeing にすると「観光中に」という意味を表す。

⑷ 「our company から始めて」とあるので，「私たちの会社は～を持っている」と考えればよい。したがって，〈Our company has ～〉とする。「たくさんの優秀な人」は a lot of [many] able [efficient] people とする。「優秀な」は「有能な」と考えて able か efficient にする。また，「人」は単純に people にしてもよいし，「従業員」と考えて employee(s)にしてもよい。

⑸ 「警察」は the police で表し，常に複数形で受ける。したがって，The police are ～としなければならない。「銀行強盗」は a bank robber [bank robbers]で表す。thief は「（こっそりものを持ち去る）強盗」という意味なので，ここでは不可。また，burglar は「押し込みの夜盗」，mugger は「路上での強盗犯」という意味。

■演習問題■

1

❶ We realize [recognize] how much power language has in many ways.
❷ As we use language, we come to realize [notice] how much power it has in many ways.

【解説】

「ことばを使っていると」は as we use language くらいで訳せばよい。ただし，訳さなくても問題ない。「ことば」は「言語全体」を表すときには不可算名詞扱いとなる。「『力』を持っているということを経験する」はまず，「経験する → 気づく」として realize，recognize などで表せばよい。また，「力」は「どれくらい大きな力を持っているのか」くらいに言い換えて表したほうがよい。その際，power（力）は不可算名詞なので形容詞は much を使う。

2

⑴ Facial expressions are important for connecting with the audience.

⑵ ❶ The audience can usually realize [notice] whether the speaker really gives a smile or not.

❷ The audience can usually tell whether the speaker's smiles are genuine [real] or not.

【解説】

⑴ 「表情」は facial expressions と複数形にする。「～とつながる」は〈connect with ～〉が簡単な表現なので，これで十分。「聴衆」は audience で表す。

⑵ 「笑顔が本物かどうか」は❶のように「話し手が本当に笑っているかどうか」と言い換えることができる。❷は原文通りに訳しているパターン。「本物」は genuine，real などで表す。「～がわかる」はここでは「～に気づく」という意味なので，realize，notice を使って表す。また，❷のように tell を使ってもよい。ただし，tell を「わかる」という意味で使うときにはふつう can tell という形にする点に注意する。

【全訳】

⑴表情は聴衆とつながるのに重要であるが，上手な話し手は表情を使って聴衆を操作したいとは思っていないものだ。⑵聴衆はたいてい話し手の笑顔が本物かどうかわかるものである。全ての体の動きでそうであるように，表情というものは話されるメッセージが自然に拡大したものであるべきだ。

【例題②】

⑴ It took (me [us]) an [one] hour and a half to go to the [a] mountain hut.

⑵ ❶ When you feel a lot of stress, you should listen to music.

❷ When you are under a lot of stress, it's good to listen to music.

⑶ I want to live in beautiful natural surroundings.

⑷ ❶ It is difficult [hard] to tell other people about your (own) opinions [thoughts] so that they can understand them.

❷ It is difficult [hard] to tell other people about your (own) opinions [thoughts] in order to be understood.

❸ It is difficult [hard] to explain your (own) opinions [thoughts] to other people so that they can understand them.

❹ You have difficulty (in) telling other people about your (own) opinions [thoughts] so that they can understand them.

⑸ They sell many [various] kinds of computers and TVs [television sets] at the store.

【解説】

⑴ 「～がかかる」は〈It takes＋人＋時間＋to *do* …〉で表す。本問では，誰が「山小屋まで行った」のか不明なので「人」の部分は省略してもよい。「１時間半」は an hour and a half で表す。half an hour「３０分」としないように。「山小屋」は a mountain hut で表す。

⑵ 本問は主語がないので補わなければならない。一般論なので you にすればよい。「ストレスがたまったら」は「ストレスがたまったとき」と考えればよい。「ストレスがたまる」は，feel a lot of stress，〈be under stress〉で表す。「音楽を聴くのがよい」は「聴くべきだ」と考えて❶のように should で表すことができる。

⑶ 「生活をする」は単に live で表せばよい。また，ここでは lead [live] a life を使うことはできない。〈lead [live] a ～ life〉というように，必ず生活の内容を表す形容詞が必要になるので注意すること。「美しい自然の中で」は in beautiful natural surroundings が一般的な表現。

⑷　「～するのが難しい」は「～するのが困難だ」と考えて，〈It is difficult [hard] to *do*〉で表す。または，❹のように〈have difficulty (in) ～ing〉で表す。その際，主語をきちんと補うこと。ここでは，一般論なので you でよい。「自分の考え」は your (own) opinions [thoughts / ideas]にする。人は様々な意見を持っているので複数形にする。「他人にわかるように」は〈so that S'＋V'…〉で表す。その際，助動詞を忘れないようにすること。また，❷のように in order to be understood で表してもよい。

⑸　「能動態で」とあるので，主語を補って書かなければならない。ここでは，「店の人」が売っているので，they とするのがよい。「あなたたちみんな」が店員というわけではないので，you を主語にするのは避ける。また，we は「われわれ」という意味になるので，店を代表して述べる場合には使うことができるが，本問では避けたほうがよい。「テレビ」は TV, television (set) で表す。「機器としてのテレビ」は可算名詞なので注意すること。

■演習問題■

3

⑴　When [After] I enter university, I want to travel abroad [overseas] during the [my] summer vacation.
⑵　Every country had its unique culture and each was attractive.
⑶　Going abroad will give you a good chance to re-evaluate [revaluate] Japan.

【解説】

⑴　「大学に入ったら」は「大学に入ったとき［後］」という意味なので，when か after を使って表せばよい。また，「大学に入る」は enter university が一般的な表現。

⑵　「どの～」は〈every ～〉でよいだろう。each でも間違いではないが，「個別の国」という意味が強くなる。「魅力的」は attractive が一般的な表現。

⑶　「海外へ出ること」が主語になっているので，不定詞または動名詞を使って表す。
日本語では「良い機会になるだろう」となっているが，これは「あなたに良い機会を与えるだろう」という意味なので，give you a good chance としたほうが英語らしい表現になる。

4

⑴　What would you do if you wanted to learn about something?
⑵　Now, however, you can turn [switch] on your computer, connect it to the Internet and start its search program.

【解説】

⑴　本問は主語が抜けているので補わなければならない。ここでは一般論について述べているので，you で十分。「～について学ぶ」は〈learn about ～〉がよい。

⑵　「インターネットにつなぐ」は「それ（コンピューター）をインターネットにつなぐ」という意味なので connect it to the Internet とする。「インターネット」は常に the が必要で大文字で始める。「検索プログラム」は search program でよいが，これは「インターネットの検索プログラム」という意味なので its search program としたほうがよいだろう。

【全訳】

⑴何かについて学びたいと思ったら，どうするだろうか。従来の方法は，本棚に行き，辞書か百科事典を手にとって，ページをめくることである。⑵しかし，今ではコンピューターの電源を入れ，インターネットにつないで，検索プログラムをスタートさせることができる。キーボードで入力して，「検索」をクリックするとすぐに探しているものがあるだろう。